

# 埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7  
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>  
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

## 令和3年度定時会員総会が開催される

令和3年度定時会員総会が令和3年6月10日(木)大宮ソニックシティ401.402号室にて開催された。本総会の審議内容は令和2年度事業報告、収支決算報告、監査報告、第50回埼玉県医学検査学会学会長選出、令和3・4年度監事の選任、名誉会員の推薦についてであった。総会は長澤英一郎事務局次長の進行で神山清志会長のあいさつで始まり、続いて名誉会員の原繁一氏の紹介があった。

議案審議に先立ち各賞表彰式が行われ、令和2年度埼臨技功労賞は第48回埼玉県医学検査学会学会長の武関雄二氏に授与された。永年会員表彰は63名の会員が該当し、総会では5名が表彰された。「埼臨技会誌」優秀論文賞は羽田幸加氏(松本市医師会検査検診センター)に授与された。

総会は議案審議に先立って関口久男氏(埼玉県済生会栗橋病院)が議長に選出され、関口議長により総会役員が指名された。資格審査委員は菊池裕子理事、東部地区から久保田亮氏(埼玉県立大学)、南部地区から急式政志氏(埼玉県立小児医療センター)、西部地区から神戸孝裕氏(関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所)、北部地区から笹野勝年氏(熊谷総合病院)が任命され、資格審査委員長には委員の互選により菊池理事が選



議長 関口久男氏



埼臨技功労者表彰 武関雄二氏(右)



永年会員表彰

出された。また書記は松内萌氏(越谷市立病院)と鈴木由美子氏(浦和医師会メディカルセンター)が、議事録署名人には田中亜紀氏(熊谷総合病院)と久保居由紀子氏(JCHO埼玉メディカルセンター)がそれぞれ任命された。その後、関口議長は「18時30分現在の出席者数52名、委任状出席者数1,948名、議決権行使書数408名で、合計2,408名であり、本通常総会を構成する会員数は6月6日現在の会員数は3,294名で現在の出席数は総会審議のために必要出席者数である1/2を超えており、『定款』第18条の規定により本総会は成立している」と宣言された(最終の出席者数は58名、委任状出席者数は1,950名、議決権行使書数は409名、合計2,417名)。

議事審議は、最初に菊池資格審査委員長より、議事日程が提案された。それに沿い関口議長の進行により審議が始まり、第一号議案の令和2年度事業報告について神山会長から、第二号議案の収支決算報告について松岡優副会長から、監査については遠藤敏彦監事より報告があった。質疑ではなく満場一致で可決された。第三号議案の第50回埼玉県医学検査学会学会長選出は、執行部の矢作副会長より神山清志氏(一般社団法人 浦和医師会メディカルセンター)を推薦する旨の提案があり、異議なく承認され、神山氏があいさつを行った。続いて第四号議案の令和3・4年度の監事の選任について、神山会長より遠藤敏彦氏(株式会社ビー・エム・エル)、細谷博光氏(細谷会計事務所)を推薦する旨の提案があり、異議なく承認された。第五号議案の名誉会員の推薦について、神山会長より津田聡一郎氏(前 埼玉県臨床検査技師会会長)を推薦する旨の提案があり、異議なく承認され、すべての議案が可決された。

総会終了後、長澤次長の進行の下、第49回埼玉医学検査学会学会長飯田眞佐栄氏(株式会社アムル)より学会からのお知らせが行われた。最後に神山会長より挨拶がありすべての日程が終了となった。

本総会が円滑に開催できたのは、関口議長の円滑な進行と総会役員、出席者の協力及び多くの会員の皆様からの委任状・議決権行使書の発送協力によるものです。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。



新名誉会員 津田聡一郎氏

(文責：松尾千賀子)



## 埼臨技事務所の夏季休暇について

**令和3年8月10日(火)～13日(金)**

上記期間は事務所が不在となりますので、  
ご承知おきください。

## 第49回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催方式：ハイブリッド

(現地開催+Webオンデマンド配信)

開催日：令和3年12月5日(日)

会場：大宮ソニックシティ

テーマ：前進

サブテーマ：～新・時代への発信～



学会公式LINE  
アカウント

第49回 埼玉県医学検査学会

運営部長 長岡 勇吾

会員の皆様、第49回埼玉県医学検査学会実行委員会にて運営部長をさせていただいております、さいたま赤十字病院長岡と申します。皆様ご存知のように、今学会は、大宮ソニックシティとWeb配信のハイブリッド開催です。大宮ソニック？ 経験済ですよ～。Web配信？ オンライン？？・・・えっ、どうやるの？？？が正直な気持ちでした。しかし、この年齢になって、未知の世界を経験できるということは幸せなこと。しかもです。集まった実行委員は頼りになる人達ばかり。これはいけるぞ！と話し合いを重ねる日々です。やるからには、何事もコロナ禍のせいにはしたくありません。皆で知恵を出し合いながら、会員の皆様にとって参加してよかった、そして記憶に残ったと言っただけの学会にしていけたらと思っています。飯田学会長をはじめとする実行委員全員で今学会を誠心誠意創り上げていきます。よろしくお願ひいたします。

第49回 埼玉県医学検査学会

会計部長 石井 直美

梅雨も明ける季節となり暑さひとしおですね。今学会のWeb開催部分については実行委員の皆様が初の試みですので、外の暑さ以上に熱くなって試行錯誤で取り組んでおります。演題を登録していただいた皆様もPowerPointに録音して・・・という作業が初めての方が多いかと思われます。わからないことがありましたら早めに実行委員にお問い合わせください。

市民公開講演では2部構成での、がん医療についての講演を、特別講演ではタスクシフティングの講演を予定しております。その他にもRCPCや各研究班によるアドバンスセミナーなどの準備を進めておりますので楽しみにしててください。

詳細が決まりましたら、学会HPはもちろん学会公式LINEでも随時お知らせいたしますので、学会公式LINEのお友達登録も是非お願ひいたします。

## 研究班研修会報告

### テーマ 病理検査の基本を学ぼう ～各施設での切り出し業務について～

主催 病理検査研究班

実施日時：令和3年5月14日 18時00分～19時00分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講演 1：「当施設での切り出し業務について ～ その① ～」

講師：荻 真里子（北里大学メディカルセンター 病理部）

講演 2：「当施設での切り出し業務について ～ その② ～」

講師：松本 絵里香（獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科）

講演 3：「当施設での切り出し業務について ～ その③ ～」

講師：高橋 俊介（株式会社ピーシーエルジャパン 病理細胞診センター）

参加人数：会員73名 学生2名

出席した研究班班員：岡村卓哉 関口久男 森田繁 荻真里子 細沼佑介 高橋俊介

今村尚貴 小島朋子 三鍋慎也

#### 研修内容・感想など

今回は3名の講師より「病理検査の基本を学ぼう ～各施設での切り出し業務について～」をテーマに自施設での切り出しについて講演があった。

荻氏からは、切り出した組織に応じて使用するカセットの種類を変えたり、スポンジを用いたりして美しい標本を仕上げるための工夫について、また松本氏からは、脱脂不良になりそうな検体を検体カゴの端に配置し、薬液の浸透を良くする工夫をされているとのことであった。高橋氏からは、切り出し時の様子を動画撮影し、問題が発生した場合の確認に用いているとのことであった。取り扱う検体数も多く、業務が統制されている様子が感じられた。

今回の講師は大学病院、衛生検査所に勤務されている方々で、それぞれの施設に合わせた手法や工夫がなされており、同じ切り出し業務でも様々な方法があることがわかった。

参加者からは、切り出しに用いるまな板の材質や、連休前の切り出しはどうしているか等、現場で役立てたい質疑が行われ、興味深い内容だったことがうかがわれた。本研修での内容が、一つでも現場の業務の参考になれば幸いである。

（文責：三鍋慎也）

### テーマ 知らなきゃ損!? Part 10

#### ～細胞診用語を考える どう表現する?この細胞集塊～

主催 細胞検査研究班

実施日時：令和3年5月18日 18時00分～19時00分

会場：Web開催 点数：基礎教科－20点

講師：加藤 智美（埼玉医科大学国際医療センター）

大谷 奈穂（埼玉県済生会川口総合病院）

急式 政志（地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター）

参加人数：会員70名

出席した研究班班員：加藤智美 山崎泰樹 鶴岡慎悟 船津靖亮 松内萌 急式政志

稲山拓司 野本伊織 猪山和美

#### 研修内容・感想など

今回の研修会では「細胞診用語」をテーマに、普段我々が細胞像を表現するために使用して

いる用語についての理解を深めることを目的とした。導入として加藤氏に細胞診と組織学的な用語の違いや剥離細胞と新鮮細胞の違いなどを解説された。様々な表現がある中で「乳頭状」「ロゼット」の二つに焦点を当て、それぞれ大谷氏、急式氏が講演された。また、各講演中に参加者に対しアンケート機能を使用した質問も行われた。

「細胞診用語」にテーマを当てた研修会は初の試みだったが、普段のルーチンワークにおいてとても重要な内容であると感じた。今後研究班では、シリーズ化して開催していきたいと考えている。

<当日のスケジュール>

18:00～ 総論 (15～20分)

18:20～ 細胞集塊2 (20分)

18:40～ 細胞集塊1 (20分)

19:00 研修会終了

(文責：猪山和美)

## テーマ 甲状腺疾患の検査と診断

主催 血清検査研究班

実施日時：令和3年5月20日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 点数：基礎教科－20点

講師：村田 みさと (富士フィルム和光純薬株式会社 臨床検査薬学術研究本部)

司会：田中 亜紀 (熊谷総合病院)

参加人数：会員169名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 富田耕平 岡倉勇太 末次遼太 田中亜紀

研修内容・感想など

今回は村田氏より甲状腺疾患の検査と診断について講演があった。甲状腺ホルモンの合成から疾患についてまで幅広い内容だった。

甲状腺疾患の罹患数は500～700万人で治療が必要な患者は約240万人居ると言われているが未治療患者が多く存在しているのが現状である。甲状腺ホルモンは視床下部からのTRH (甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン) により刺激を受け下垂体よりTSH (甲状腺刺激ホルモン) が分泌される。TSHはTSHレセプターに結合し、T4・T3 (甲状腺ホルモン) 産生を促進している。ネガティブフィードバックによりホルモンは調整されているが、甲状腺機能亢進症や甲状腺機能低下症はこのバランスが破綻している状態である。甲状腺機能亢進症はホルモン合成・分泌が高まっている状態でバセドウ病が70～80%、甲状腺炎が20～30%を占めている。甲状腺機能低下症には橋本病が多くみられる。甲状腺機能の評価にはTSH、FT3、FT4を測定するがTSHとFT4に乖離が見られる場合がある。乖離が見られるのは視床下部や下垂体の異常、甲状腺機能亢進症・低下症の治療中に一時的にみられる下垂体の反応異常、生理的要因などがある。生理的要因には妊娠中にHCG濃度が高くなり妊娠性一過性甲状腺機能亢進症を生じる場合がある。妊娠中に甲状腺機能異常が起きると妊娠高血圧症候群、流産、早産などのリスクが高まる為、注意が必要である。

今回の講演は甲状腺の基礎から疾患に関してと、幅広い内容であり興味深い内容であった。今後の業務に活かしていきたい。

(文責：田中亜紀)

テーマ **これで当直も怖くない!!** ～一般検査のポイント～

主催 一般検査研究班

実施日時：令和3年5月25日 19時00分～20時00分

会 場：Web開催 点数：基礎教科－20点

講 演 1：尿沈渣検査

講 師：佐々木 菜緒（越谷市立病院）

講 演 2：髄液検査

講 師：渡邊 裕樹（埼玉医科大学総合医療センター）

参加人数：会員189名

出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 小関紀之 柿沼智史 佐々木菜緒 渡邊裕樹  
小針奈穂美 中川禎己

## 研修内容・感想など

佐々木氏の尿沈渣検査についての講演では、赤血球に始まり、白血球、上皮細胞、円柱、塩類・結晶までそれぞれ鑑別ポイントや出現機序などを解説された。

赤血球では特に糸球体型赤血球と非糸球体型赤血球の鑑別が重要であり、糸球体型赤血球の鑑別のポイントは個々の赤血球形態だけにとらわれず、全体の赤血球の出現パターンを把握することも重要とのことであった。糸球体型赤血球の出現機序は、損傷した糸球体基底膜を通過する際の機械的なダメージとネフロン通過時の浸透圧などによる環境の変化によることが考えられている。しかし、糸球体からの出血であっても腎機能が著しく低下している場合は、赤血球形態の変化を認めないこともあるため、赤血球円柱の出現などに注意が必要である。

上皮細胞については、それぞれの細胞の特徴をしっかりと念頭に置き、サイズ、細胞質表面構造、細胞辺縁構造、核などをよく観察し、無染色と必要に応じてS染色を行い鑑別することが重要である。また、日当直時の検査では、特に尿路感染症の鑑別に白血球、細菌の報告は重要視されるとのことだった。

渡邊氏の髄液検査についての講演では、概論から検査法、生化学検査や症例まで解説された。髄液検査の目的は、髄膜炎、脳炎を主体とする神経系疾患や感染症、白血病、悪性腫瘍などの診断と治療評価であり、特に日当直時においては緊急性が高い疾患の診断目的に検査が依頼される。

講演の最後には細菌性髄膜炎の症例が提示され、多型核球優位の細胞数増加、髄液糖の低下、外観の混濁、髄液蛋白と髄液LDHの増加を認めた。細菌培養では *S.pneumoniae* が検出された。細菌性髄膜炎の診断には髄液検査が重要であり、迅速な結果報告が求められる。成人の場合、致死率は20%前後で30%程度に後遺症が見られるとのことであった。

今回の講演は、特に日当直時など不慣れな方が検査する場合や、一般検査の初心者を対象とした検査のポイントについてであり、今後の業務に活かしてほしい。

(文責：小関紀之)

テーマ **輸血検査の“これだけはおさえておきたい”**

主催 輸血検査研究班

実施日時：令和3年5月26日 19時00分～20時00分

会 場：Web開催 点数：基礎教科－20点

講 演 1：埼玉県・埼玉県医師会精度管理事業報告（令和元年度・二年度）

講 師：宮川 勇（小川赤十字病院）

講 演 2：どうして日当直の輸血業務は不安？

講 師：久保居 由紀子（JCHO埼玉メディカルセンター）

参加人数：会員74名

出席した研究班班員：久保居由紀子 渡邊一儀 宮澤翔子 小原佑太 岸健太 比嘉絢子

研修内容・感想など

昨年度はコロナ禍にて思うように研修会を行うことが出来なかったが、2021年度1回目の輸血検査研修会を開催できたことを嬉しく思う。

毎年この時期に精度管理報告を行っているが、昨年度は研修会中止ということもあり2年度分の報告となった。そして、新人・兼任者向けに日当直での輸血検査についての2演題を行った。

宮川氏の講演は医師会精度管理の報告データについて詳細な解析を行ったものであり、2020年度から「Rhコントロール試薬との反応未実施」をB判定とする新しい基準を設けたものだった。新基準によりB判定となる施設も散見された。Rhコントロール試薬はRhD血液型検査の精度を担保するものであり、その重要性や導入検討を促す働きかけをしていく必要があると感じた。

久保居氏の講演は日当直で輸血検査を行うことを不安に思ってしまう原因や精神状態などを共感しつつ、自己分析をすることで明確に問題点を見つけ出し、それを解決するためにどうしたら良いか、わかりやすく解説したものであった。輸血検査の血液型を例に挙げ、異常反応の考え方や解決方法を示された。臨床側との連携は自身によるものもあるが、自信を持って検査を行えるようになれば心の余裕が生まれ、不安や検査遅延などが解消されるのではないかと思う。是非、日常業務に活かしてほしい。(文責：小原佑太)

## テーマ 抗酸菌の基礎

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：令和3年5月27日 18時30分～19時15分

会場：Web開催 点数：専門教科-20点

講師：富井 貴之（株式会社ビー・エム・エル総合研究所）

参加人数：会員57名

出席した研究班班員：富井貴之 立塚梓 鈴木由美子 吉田翔平

研修内容・感想など

今回は富井氏より「抗酸菌の基礎」をテーマに、結核の公衆衛生や抗酸菌の分類、検査法についての講演で、前半では結核菌の感染経路や結核の発症機序、結核患者数の推移などお話された。

日本の結核罹患率（人口10万人対）は年々低下しているが、他の先進国と比較して高いことが知られている。2019年までの結核罹患率は10.0を上回り、中蔓延国に位置していたが、2020年の結核罹患率は10.0を下回ると推定され、低蔓延化を目指して前進していることがわかった。ただし、2020年の新登録結核患者数の大幅な減少には新型コロナウイルス感染症拡大に伴う保健所業務の負担や接触者検診の未受診などの影響によるものと考えられているため、今後の動向に注視していく必要があるとのことであった。

後半では小川培地での結核菌群とRunyon分類 I～IV群の非結核性抗酸菌群のコロニーの写真を解説された。また、抗酸菌の検査法として、塗抹検査、培養検査、遺伝子検査、薬剤感受性検査などについて説明があった。院内感染で重要な結核菌だけでなく、近年では非結核性抗酸菌による感染症の報告が目立つため、見逃すことのないよう検査の適切な手技や経験を身につける必要性を再認識した。

検査センターの話にも時折触れていたが、検査件数の多さに驚かされた。それと同時に、培養や遺伝子検査など一部の検査を委託する施設では、委託先の検査結果まで確認し、自施設で

の塗抹検査などの結果と照らし合わせることで、結果の総合的な解釈に重要だと改めて気づかされた内容であった。

今回の講演は抗酸菌について基礎的な内容であったため、細菌検査室に配属されたばかりの初心者にも分かりやすく、慣れた方には再確認の時間になったのではないだろうか。

(文責：吉田翔平)

## テーマ **新人必見!!** **今知るべき生化学検査項目のパニック値とピットフォールについて**

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：令和3年5月28日 19時00分～20時00分

会 場：Web開催 点数：専門教科－20点

講 師：北川 裕太郎（埼玉医科大学病院）

参加人数：会員226名

出席した研究班班員：永井謙一 北川裕太郎 小林麻里子 羽田幸加 石川純也 巖崎達矢  
大谷真澄

研修内容・感想など

今回は北川氏より「新人必見!! 今知るべき生化学検査項目のパニック値とピットフォールについて」の講演であった。

パニック値と極端値の違いから始まり、ピットフォールについて、パニック値項目から考える異常値解釈、ピットフォール現象、実際の事例についてZoomアンケート機能を活用して視聴者参加型で行われた。

パニック値は、「生命が危ぶまれるほど危険な状態にあることを示唆する異常値で、直ちに治療を開始すれば救命しうるが、その診断は臨床的な診察だけでは困難で検査によってのみ可能である」とあり、極端値(基準範囲から大きく外れた検査値)は検査過誤や分析前誤差に起因する値も含まれ、パニック値と見分ける必要があるとのことだった。

ピットフォールとは落とし穴の意味であり、予想外に起き、落ちていることに気づかないこともあり、知識や経験を重ねての穴埋め作業が必要で、個人だけでなく検査室全体で取り組むことが重要である。

パニック値項目から考える異常値解釈として、異常低値、異常高値などの異常値の場合は、迅速に臨床へ報告する事で適切な処置・治療が行われ救命に繋がるのでとても重要である。

ピットフォール現象から考える部分では、血清の性状について、採血管や薬剤の影響、機器トラブルについて、ヒューマンエラーなど日常業務の様々な状況において遭遇しやすい事例を紹介された。

最後に「事例から考える」として、実際に起きた3つの事例を基にZoomアンケート機能を活用して、視聴者参加型で参加者全員が対応を考える内容であった。

今回の講演では、業務のルール化やマニュアル作成の重要性、さらに遭遇したピットフォール現象などはしっかり部署全体での情報共有が大事であると改めて認識できた。新人だけでなく業務に慣れた方でも勉強になる内容であった。

(文責：石川純也)



令和3年度  
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会  
第3回 理事会議事録

日 時：令和3年6月3日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項  
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：現地にて出席

(理事) 神山 矢作 猪浦 濱本 長澤  
神嶋 松尾 伊藤 笹野 松寄  
塚原 石井 神戸 阿部  
久保田 長谷川

(監事) 遠藤

Zoomにて出席

(理事) 松岡 菊池 長岡 飯野

(監事) 細谷

欠 席：(理事) 小山 山口

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は20名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

### Ⅰ. 行動報告 (令和3年5月13日～令和3年6月2日)

5月13日(木) 令和3年度第2回理事会：

神山、松岡、猪浦、濱本、長澤、山口、神嶋、菊池、松尾、伊藤、笹野、塚原、松寄、石井、神戸、阿部、長岡、久保田、長谷川、飯野、遠藤、細谷

5月21日(金) 第49回埼玉県医学検査学会実行委員会：神嶋、飯野

5月21日(金) 日臨技臨床化学・免疫認定委員会：神山

5月22日(土) Zoomの設定に関する会議：

矢作、小山、濱本、長澤、長岡、塚原

5月22日(土) 日臨技関甲信支部タスクシフト伝達会議：

神山、矢作、猪浦、濱本、長澤

### Ⅱ. 報告事項

#### 1 事務局

- 1) 5月22日(土)、Zoomの設定に関する会議を開催した。(別紙資料1)

- 2) 5月22日(土)、日臨技関甲信支部タスクシフト伝達会議が開催された。

(別紙資料2)

- 3) 5月24日(月)、埼玉県庁医療整備課より立ち入り検査について連絡があった。11月に実施予定。

- 4) 5月26日(水)、さいたま市保健所に令和3.4年度衛生検査精度管理委員に3名推薦した。

#### 2 総務部

- 1) 6月15日、埼臨技だより505号発行予定

#### 3 事業部

- 1) 5月26日、深谷市より第16回深谷市福祉健康まつり(令和3年度)、コロナ感染拡大防止のため、中止の連絡があった。

#### 4 学術部

- 1) 5月8日(土)、令和3年度理事・研究班合同会議(生涯教育関連・会計関連)を開催した。(別紙資料3)

- 2) 生涯教育プログラム8・9月分を埼臨技だより6月号に同封予定

#### 5 精度保証部 特になし

#### 6 会計部

- 1) 5月理事会の報告事項にて、令和3年度正会員費100名500,000円、入会金7名分7,000円、再入会金3名分3,000円、合計516,000円の入金があったと報告したが、令和3年度正会員費103名515,000円、入会金10名分10,000円、再入会金3名分3,000円、合計534,000円の入金に訂正する。

- 2) 令和3年度正会員費83名415,000円、入会金54名分54,000円、再入会金4名分4,000円合計473,000円の入金があった。

- 3) 株式会社サンメディアより複製等の使用許諾料1,155円(7件)の入金があった。

- 4) 株式会社メテオより著作権使用料5,858円の入金があった。

- 5) 株式会社マクロミルヘクエスタント利用料55,000円を支払った。

- 6) 令和2年度分会費5,000円×2名分、合計10,000円を退会会員に振込んだ。

- 7) 石井印刷へ、埼臨技だより第504号印刷代92,752円を支払った。

#### 7 精度管理委員会 特になし

#### 8 一都八県会長会議

- 1) 日臨技関甲信支部・首都圏支部学会(第57回)のHPが開設された。(会期：令和3年10月2・3日)

#### 9 日臨技関甲信支部

- 1) 5月22日(土)、日臨技関甲信支部タスクシフト伝達会議が開催された。

フト伝達会議が開催された。

10 日臨技 特になし

11 第49回埼玉県医学検査学会

- 1) 5月21日(金)、第49回埼玉県医学検査学会  
実行委員会を開催した。(別紙資料4)

III. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和3年度分)

令和3年6月1日現在  
 会員数 3,294名[令和2年度会員数3,214名]  
 (新入会員 150名)  
 賛助会員 62社[令和2年度 78社]  
 承認された。

- 2) 役員の派遣について

日臨技会館で関甲信地区代表3名の内、  
 埼臨技から1名猪浦を派遣、8月下旬に行  
 われるタスクシフティング実務担当者講習  
 会関甲信支部研修会(群馬県で調整中)に、  
 事業部の4名(伊藤、笹野、塚原、松寄)  
 と理事他6名(矢作、松岡、小山、濱本、  
 長澤、長岡)、計10名を派遣したい。  
 上記の件について、猪浦一人副会長より、  
 発言があり、審議の結果、承認された。

- 3) 埼臨技事務所夏季休暇について

令和3年度の夏季休暇を8月10日から13  
 日までとしたい。  
 上記の件について、濱本隆明事務局次長  
 より発言があり、審議の結果、承認された。  
 尚、休暇期間中の8月12日の第5回理事会  
 は予定通り開催する。

2 総務部 特になし

3 事業部 特になし

4 学術部

- 1) 研究班年間事業計画変更について  
(別紙資料5)

上記の件について、長岡勇吾学術部長より  
 発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

7 精度管理委員会 特になし

8 第49回埼玉県医学検査学会

- 1) 第49回埼玉県医学検査学会からの上程事項  
について(別紙資料6)  
 上記の件について、神嶋敏子理事より発  
 言があり、審議の結果、承認された。

IV. 議題

1 事務局 特になし

2 総務部 特になし

3 事業部 特になし

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を  
 謝して閉会とした。

# あ と が き

三大香木(さんだいこうぼく)をご存知ですか? 香りの強い花をつける三つの樹木のこ  
 とをいいます。春の沈丁花(ジンチョウゲ)、夏の梔子(クチナシ)、秋の金木犀(キンモクセイ)  
 のことで、甘い香りで季節の訪れを告げてくれます。冬の臘梅(ロウバイ)もあわせて四大香  
 木と呼ばれることもあります。どの花も庭木や街路樹に使われていますので、外を散策して  
 いると遭遇しているかもしれませんね。

このご時世、遠出も出来ないので、散歩をする機会が増えました。国指定の名勝となっ  
 ている松並木がもっばらの散歩コースですが、車窓からは感じることでできない、花の香りや  
 鳥のさえずりに癒されている今日この頃です。

(石井 記)

